

### III. 薬学科の人材養成の目的と3ポリシー

#### 【学部・学科の人材養成の目的】

薬学部・薬学科では、社会生活を送るうえで必要となる知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、創造的思考力の習得のもとに、薬学分野に関する基礎的な知識及び基本的な技術と態度を基盤とし、豊かな人間性と医療人としての高い使命感を有し、生命の尊さを深く認識し、生涯にわたって薬の責任者としての自覚をもち、人の命と健康な生活を守るとともに、他の医療関係職種と連携・協働して、地域社会の保健・医療・福祉の向上に寄与する次のような人材を養成する。

- ①薬剤師の責務及び法令を遵守し、人の命と健康を守る使命感、責任感及び倫理観を有する人材
- ②患者の権利を尊重し、常に患者と家族・生活者の立場に立って、行動することができる人材
- ③患者・生活者、他職種から情報を収集し、有益かつ適切な情報として発信するコミュニケーション能力を有する人材
- ④医療チームに参画し、相互の尊重のもとに責任ある行動を適切にとることができる人材
- ⑤生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学的知識を有する人材
- ⑥薬物療法を主体的に計画、実施、評価し、薬学的管理のもとで安全で有効な医薬品の適正使用を推進できる人材
- ⑦地域の保健、医療、福祉、介護及び行政等と連携して、国民の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する人材
- ⑧薬学・医療の進歩に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を有する人材
- ⑨薬学・医療の進歩に対応するために、医療に関わる社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する人材
- ⑩次世代の薬剤師を育成する意欲と態度を有する人材

## 薬学科ディプロマ・ポリシー

薬学科は、「科学的市民」の育成という教育理念のもとに以下の資質や能力を身につけ、所定の授業科目を履修して卒業に必要な単位を修得した学生に、学士（薬学）の学位を授与します。

### 1. コミュニケーション力

患者・生活者や他の医療関係職種と適切なコミュニケーションを取れる態度・能力を有している。

### 2. 課題を発見し、問題を解決する力

問題発見・解決能力のために必要な、多面的に物事を見る力、論理的思考力、情報分析力を有している。

### 3. 自らを律し、学び続ける力

生涯にわたって研究研修・研鑽を継続するとともに、医療を担う次世代の人材を育成する意欲と態度を有している。

### 4. 他者と協力して目的を達成する力

他の医療関係職種と連携・協力して地域住民の健康増進、公衆衛生に貢献できる能力を有している。

### 5. 専門的知識・技能を習得し、実践する力

基盤能力とともに薬剤師に必要な知識・技能・態度を修得し、適切な薬物療法や薬学的管理を実践できる能力を有している。

### 6. 総合力

豊かな人間性ととともに、基盤能力と専門性を併せ持ち、専門職としての役割を主体的に果たすることができる。

## 薬学科カリキュラム・ポリシー

薬学科では、基本教育科目、薬学関連科目、薬学専門科目の有機的な結合によって、薬剤師としての専門能力と専攻分野を通じて学士力を培うことを目指したカリキュラムを設計しています。このことを明確にするために、ディプロマ・ポリシーの各項目を達成するために必要な授業科目の流れを「カリキュラムフロー」に示し、各授業科目と到達目標の関連性については「到達目標と授業科目の対応表」としてまとめています。また、教員団はその組織的関与により、常にカリキュラムの点検評価、及び改善を行います。学修成果やカリキュラムの点検評価の方針をアセスメント・ポリシーとしてまとめています。

1. 豊かな人間性及び幅広い教養を身につけるための基盤能力、学修スキル、コミュニケーション力を培う薬学準備教育科目を配置します。
2. 「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準拠し、これに薬学部薬学科の独自科目を配置します。
3. 基盤能力と医療人育成に関連する科目を体系的、効率的に理解できるよう配置します。
4. 適切な薬物療法を実践するために、最新かつ高度な知識及び技能を学ぶ科目を配置します。
5. 医療現場における課題をチームとして対応する能力を身につけるために、統合型学習やグループ学習を導入します。
6. 他の医療関係職種と連携し、地域医療に貢献する薬剤師を育成するため、地域での体験型学習に取り組みます。
7. 教育目的達成度調査結果、学生調査などに基づくポートフォリオ面談を行い、学生個々の学習成果とコンピテンシーについて長期的なルーブリックを用いた形成的評価を行います。
8. 1年次から6年次までに修得した知識・技能・態度の到達度と獲得したコンピテンシーについて「アドバンスト演習」、「卒業研究」、「総合演習Ⅱ」により総括的評価を行います。

## 北海道科学大学アセスメント・ポリシー

### － 3つのポリシーと学修成果の評価に関する方針－

本学ではディプロマ・ポリシー (DP)、カリキュラム・ポリシー (CP)、アドミッション・ポリシー (AP) の3つのポリシーに基づく教育の実施と不断の改善・改革を教育の内部質保証の中核ととらえます。本ポリシーは、この3つのポリシーそのものの妥当性と、これに基づく教育の実施にあたっての学修成果及び教育成果（大学、プログラム、授業科目、学生の達成度）の評価の方針を定めたものです。これらの結果をそれぞれの対象にフィードバックするとともに、全学的に集約して教育の改善を組織的に継続して行います。

#### ■教育理念・人材養成の目的と DP の整合性

教育目的達成度調査、学生調査、外部試験などの結果と下記の学科、授業科目、学生に関する評価結果を全学的に集約し、大学全体での学修状況を評価します。また、学生の進路（就職率、国家資格取得率等）や卒業生、企業アンケート、産業界からの意見聴取などから、各学科の DP が社会における顕在・潜在ニーズを踏まえているかとともに、学修成果の水準設定の妥当性などを確認します。

#### ■DP-CP の整合性と学修成果の評価基準

##### ・学科（教育課程）を対象とする評価

単位取得状況・GPA・進級状況、および学科の定める資格の取得状況などで、学年ごとの学修状況を評価します。また、毎年行う教育目的達成度調査、および1・3年次に行う大学 IR コンソーシアム学生調査、汎用的技能・志向性を測定する外部試験などを集計した結果から、教育課程全体を通じた学修成果・教育成果の達成状況を評価します。さらに、学科の所定の科目の単位取得状況と卒業研究により、教育課程の体系性と専攻分野における知識・技能・態度の達成度とコンピテンシーを総括的に評価します。

##### ・授業科目を対象とする評価

成績分布、授業改善アンケート、および教育目的達成度調査などの結果とカリキュラムマップ詳細版などを用いて、個々の科目の目標の達成度合、達成目標と DP との整合性、授業の内容・方法（能動的学修の充実や質的転換の観点）、成績評価手段などに関する評価を行います。

##### ・学生を対象とする評価

教育目的達成度調査結果、学生調査結果などに基づくポートフォリオ個別面談を行い、



# 薬学科 アドミッションポリシー

## ① 基本方針

チーム医療、地域医療、在宅医療など、医療現場で求められる薬剤師の役割は、今後ますます重要になっていきます。将来、薬剤師として活躍するためには、「どのような薬剤師になりたいのか」を明確にイメージし、目標達成に向かって学んでいくことが大切です。薬学科では、薬剤師に必要な知識・技能・態度、豊かな人間性と医療人としての高い使命感を有する「医療の現場で活躍する薬物療法の専門家」になるための教育を行い、地域社会の保健・医療・福祉の向上に寄与する人材を育成します。

そのために、以下の資質・能力・意欲を持った学生を受け入れます。

## ② 求める人材像と学力の3要素

求める人材像		思考力 主体性		
		知識 技能	判断力 表現力	多様性 協働性
薬剤師になることを強く希望する人	→	△	○	◎
人々の健康を大切に、地域医療への貢献を志す人	→	△	○	◎
薬学を学ぶために必要な基礎学力を有し、高い勉学意欲のある人	→	◎	○	△
ルールを守り、協調性と思いやりをもって行動することができる人	→	△	◎	○
良好な人間関係を築くために必要なコミュニケーション能力のある人	→	◎	○	△

## ③ 学力の3要素と求める学習成果

学力の3要素		求める学習成果					
知識・技能	→	学力試験	調査書	発表	推薦書	集団面接	
思考力・判断力・表現力	→	学力試験	調査書	発表	レポート	個人面接	
主体性・多様性・協働性	→	推薦書	集団面接	自己推薦書	集団討論		

## ④ 求める学習成果と入学者選抜方法

入学者選抜方法	学力試験	調査書	発表	レポート	推薦書	集団面接	個人面接	自己推薦書	集団討論
新ガリレオ入試	△		○	◎		○	△	△	◎
公募推薦入試	△	○			○	◎		○	
一般入試	◎								
自己推薦入試	△	○					○	◎	
大学入試センター試験利用入試	◎								
外国人留学生入試	○						◎		

## ⑤ 入学前に習得すべき内容・水準

- ・社会、医療における諸問題を解決するために必要な幅広い分野の基礎知識を習得していること。
- ・高等学校等において、明確な目的意識を持って主体的に学ぶ姿勢を経験していること。
- ・薬の構造や性質、作用機序、体内動態などについて理解するための基本的な科学力を有していること。
- ・薬学を中心とする学士課程教育を学ぶための必要な基礎学力(理科、数学、外国語、国語)を有するとともに、自分の考え、意見やさまざまな情報を相手にわかりやすく正確に伝えるためのコミュニケーション能力を身につけていること。

※記号(◎, ○, △)は重要度の順序を表しています。